

## 第2部 今も昔も遊び心を刺激し続ける日本の2大電気街

# 第2章 大阪・日本橋

吉谷 達嗣(でんでんタウン電子工作講師) Tatsushi Yoshitani

昭和50年頃、関東から大阪に来て、家電量販店に約30年間勤務、最終的に電子パーツ店の店長を経験、その後でんでんタウン協栄会の事務局に勤務し、現在はでんでんタウン協栄会と日本橋筋商店街振興組合が支援する電子工作教室の指導員をしています。

この間、聞き及んだこと、実際に経験したことを元に、大阪・日本橋でんでんタウンの歴史をお話します。

### 大阪・でんでんタウン物語

#### ● 戦前…眺望閣を中心に土産屋が並ぶ

戦前は、北に7階建ての眺望閣がありました。それに対抗して南には5階建ての眺望閣がありました(写真1)。この眺望閣を中心にして放射状にお土産屋さんが並びました。戦後はここが闇市となり、古物などあらゆる物品が並ぶ町になりました。

今はこの眺望閣はありませんが、五階百貨店の看板(写真2)は残っていて、日本橋商店会として主に中古品中心のお店が庇(ひさし)をくっつけて並んでいます。



写真1 戦前の五階眺望閣…  
1888年(明治21年)



写真2 1945年(昭和20年代)頃の戦後間もない五階百貨店付近。現在の日本橋4丁目に看板は残っている



写真3 専門店が増えた1958年(昭和33年)頃の電子パーツ店のようす



写真4 1964年(昭和39年)は、アンサンブル・ステレオ全盛期

#### ● 戦後1955年～(昭和30年代)…ラジオから始まった専門店

戦後、解放されたラジオ放送を聴くためにラジオが必要になり、闇市にもラジオ部品がどこからとなく集まるようになりました。何軒かの露店を巡ると真空管式ラジオの部品が揃うようになりました。今でいう電子パーツ屋さんです。トランス、コンデンサ、抵抗、シャーシ、真空管、リード線、はんだこてなどの工具、スピーカ、ケースと、得意分野に特化した専門店が並んでいました(写真3)。

その中には水道関連の専門店もあって、今でも名残りのお店があります。部品の他にも原材料の闇流通もあったようで、入手しやすい大阪で得た銅板などを京都に持っていくだけで数倍になり、大儲けをした人もいたようです。

誰もが欲しかった真空管式ラジオは、少し知識や経験のある人が組み立てて、完成させては個人で売っていました。この頃はまだ大量生産できるメーカーはありませんでした。

3球や5球ラジオはスーパー式となり、発振や混信に強くなっていきました。この頃になるとキットを販売する小さなメーカーも出現し、それを経験のある素人が組み立てては売っていました。この時代の木箱に入ったラジオは今でもネット・オークションで入手できます。

後に大手メーカーも製品としてラジオを販売するよう